

2. 豊田市古嵐地区

(1) 位置

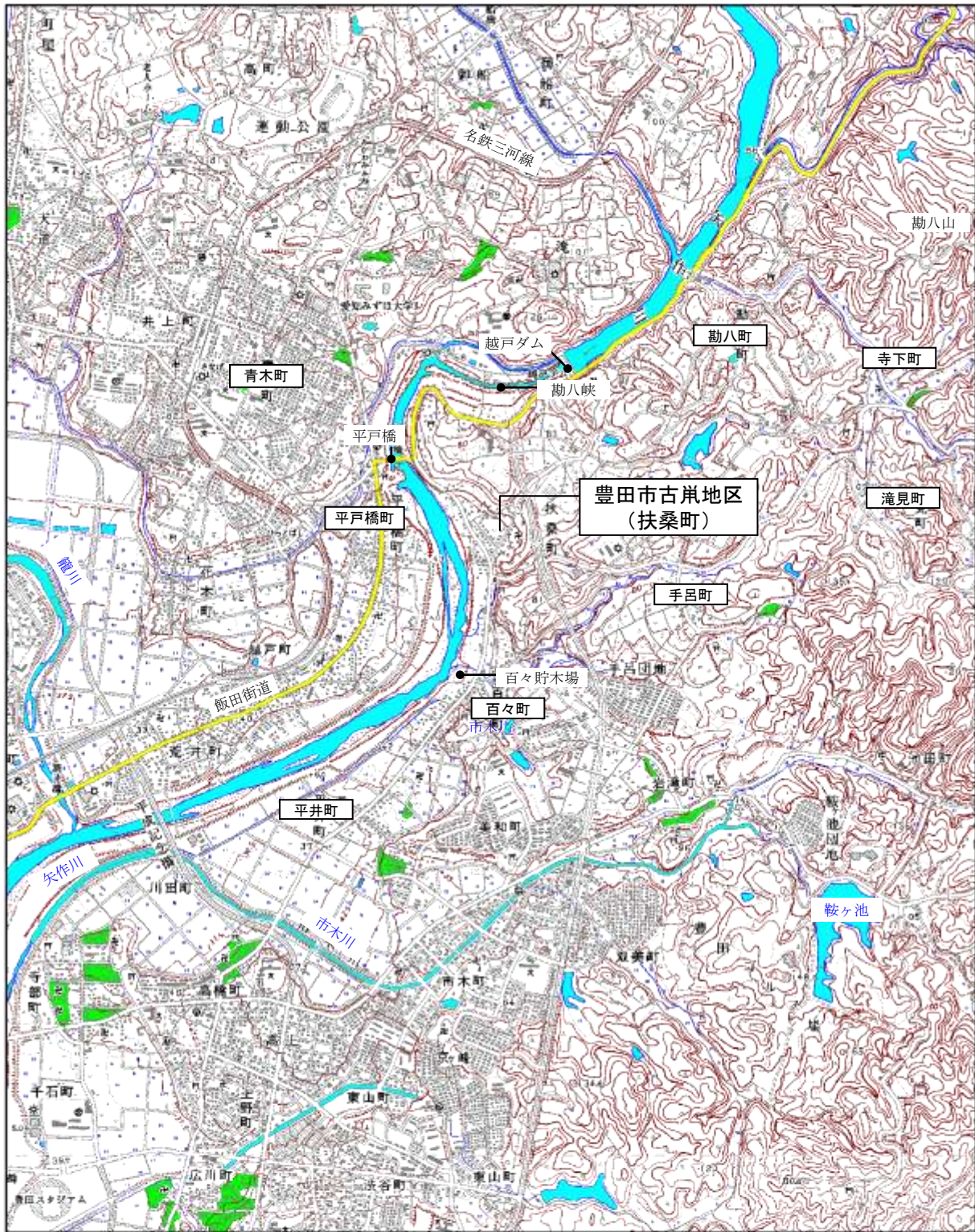
愛知県豊田市古嵐地区（現在は扶桑町という）は矢作川中流域の矢作川左岸に位置し、東は勘八町、手呂町等が、南は百々町、平井町等、川を挟んで西は平戸橋町が隣接する。豊田市中心部から国道153号で東に約7kmに位置する矢作川中流域の川辺の集落である。集落は南北に細長く、標高80メートル級の山が背後にせまる。昭和4年（1929年）には上流に越戸ダムが完成し、地区一帯の環境に大きな影響を与えた。



図 3-1：流域内位置図



図 3-2：位置図



- 内水面
- 主要道路

資料：2万5千分の1地形図

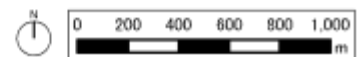


図 3-3：対象地区および周辺の概況図

(2) 自然環境の概況

1) 気候

豊田（北緯 35 度 7.9 分、東経 137 度 10.6 分）の平成 21 年（2009 年）の年間気象状況は、年平均気温は 15.5℃、年間降水量 1733.5mm で、最高気温は 35.7℃、最低気温は-4.4℃であり、夏に雨が多く冬は快晴で乾燥しやすい気候であり、内陸的な性格を有している。

表 3-1：豊田の年間気象状況（2009 年）

月	降水量 (mm)	日平均気温 (℃)	最高気温 (℃)	最低気温 (℃)
1	79.0	4.2	15.6	-4.4
2	80.0	6.7	19.4	-4.0
3	119.0	8.6	22.3	-1.5
4	92.0	14.2	27.2	0.7
5	237.0	18.8	31.9	7.7
6	232.0	22.4	32.2	11.3
7	290.0	26.0	34.7	19.3
8	173.0	26.7	35.7	17.9
9	52.0	23.1	34.4	13.3
10	155.0	17.1	28.4	8.6
11	161.5	11.9	25.5	1.4
12	63.0	6.5	18.3	-3.6
年間	1733.5	15.5	35.7	-4.4

出典：気象情報統計

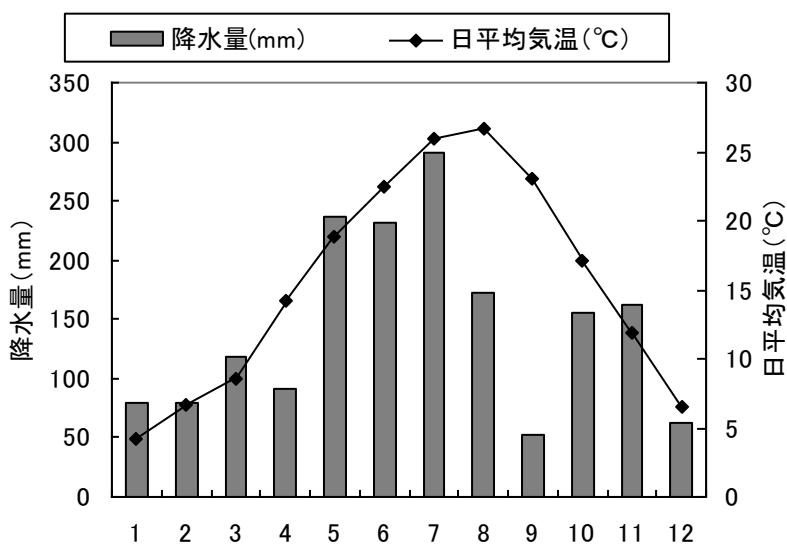
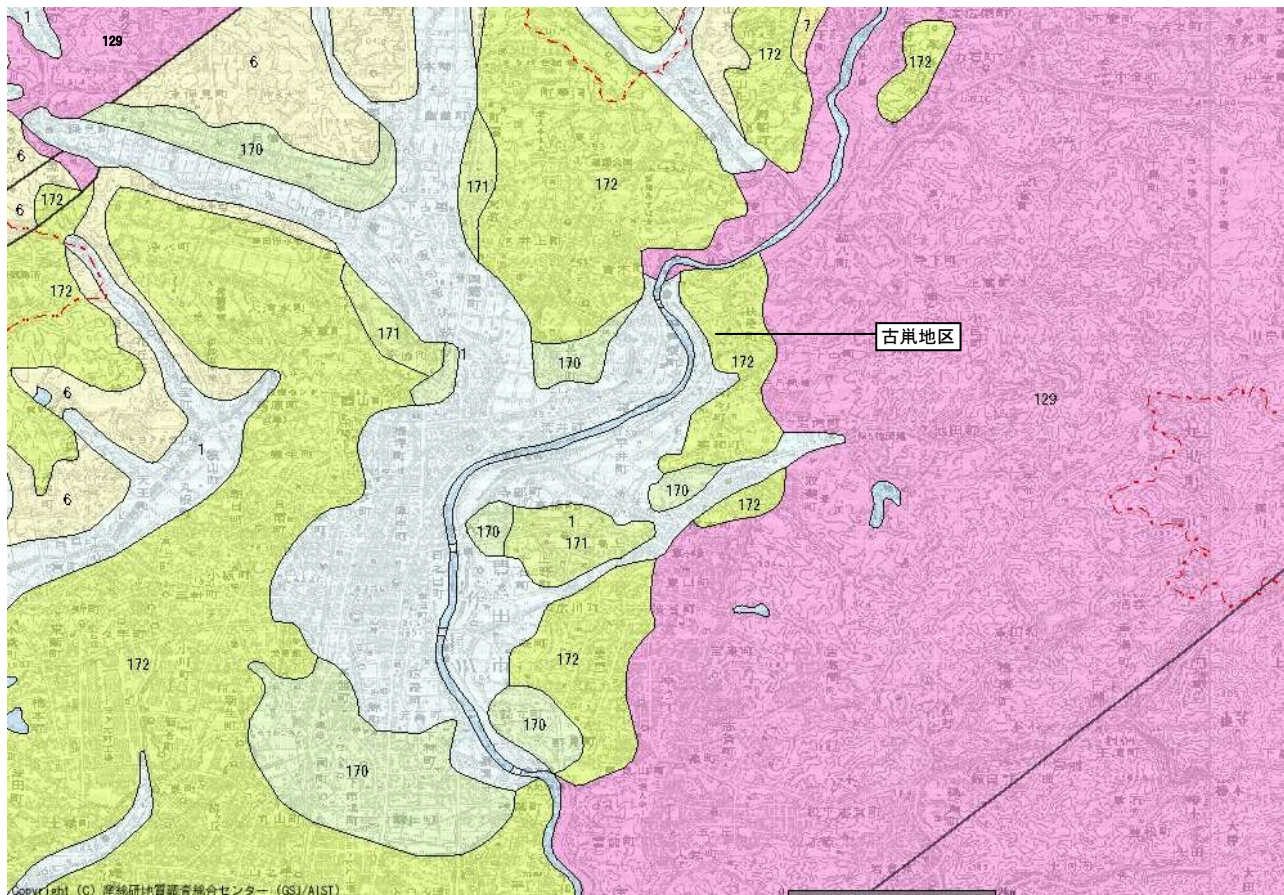


図 3-4：豊田の月別平均気温と降水量（2009 年）

気象情報統計より作成

2) 地形・地質

矢作川流域は、花崗岩質（珪長質深成岩類）の山林と市街化した沖積層（堆積岩類）の平野部に大きく2区分される。古峯地区は山林と平野部の境界部にあたり、集落は山と矢作川に囲まれた砂礫台地（堆積岩類およびに高位段丘）上に立地する。



凡例

1	後期更新世-完新世（約1万8000年前～現在）の堆積岩類（海成及び非海成層）
6	後期中新世-鮮新世（約700万年前～170万年前）の堆積岩類（非海成層）
129	後期白亜紀（約1億年前～6500万年前）の珪長質深成岩類
170	後期更新世（約7万年前～1万8000年前）の低位段丘
171	後期更新世（約15万年前～7万年前）の中位段丘
172	中期更新世（約70万年前～15万年前）の高位段丘

図 3-5：地質区分図

出典：産業技術総合研究所地質調査総合センター「シームレス地質図データベース」

3) 植生

古峯地区はスギ・ヒノキ林の山が集落の背後に迫り、川と山に挟まれたわずかな平坦部が農地として利用されている。南西の平井町周辺では、矢作川に沿って自然草原が緩やかに連続し、自然林（サカキ-コジイ群集）が点在する。

巨樹・巨木調査（昭和63年、第4回自然環境保全基礎調査、環境庁自然保護局、平成16年、第6回自然環境保全基礎調査、環境省自然環境局）では、平井町のムクノキ（東光院）や池田町のスギ（津島神社）などが調査対象となっている。

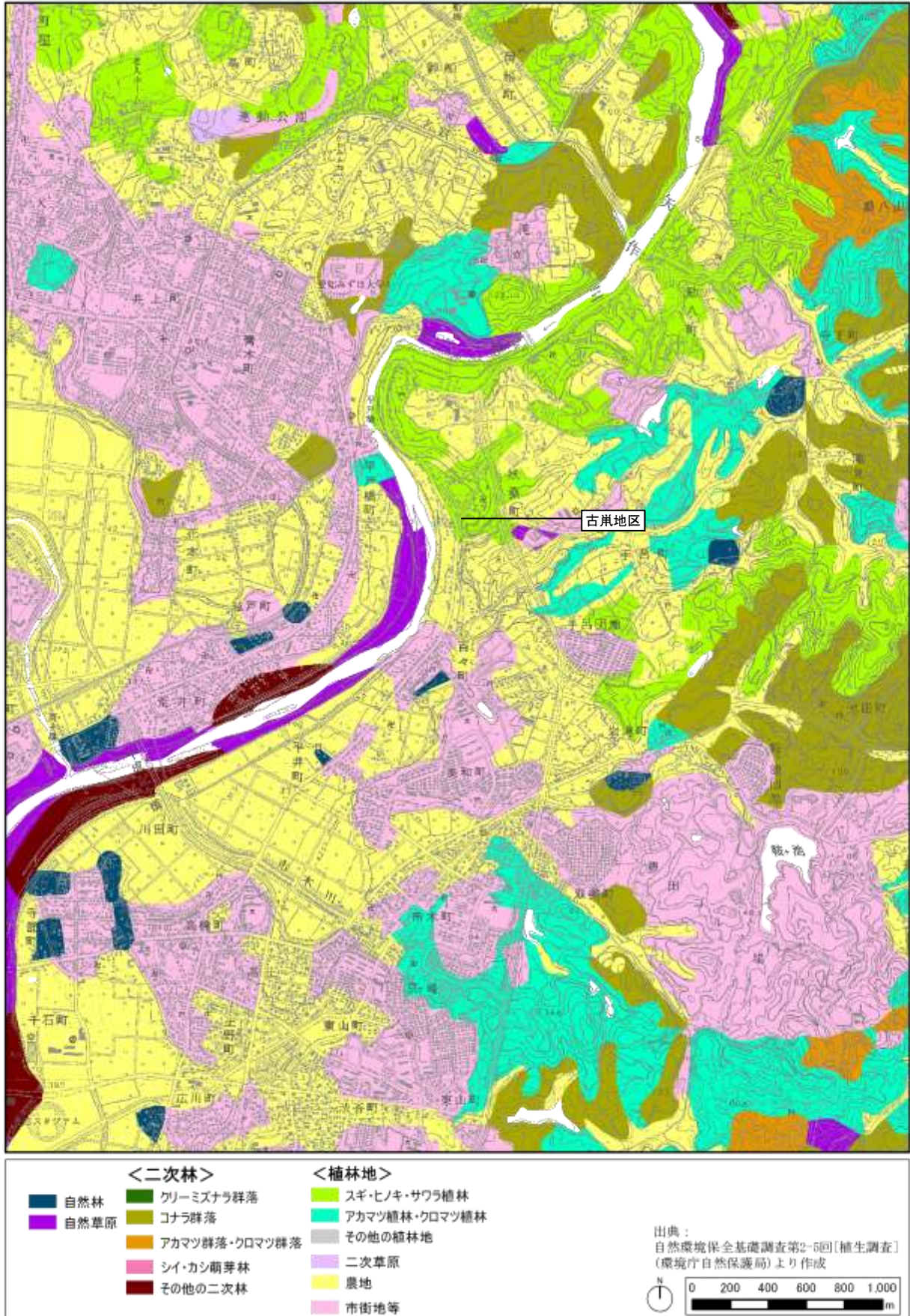


図 3-6 : 植生区分図

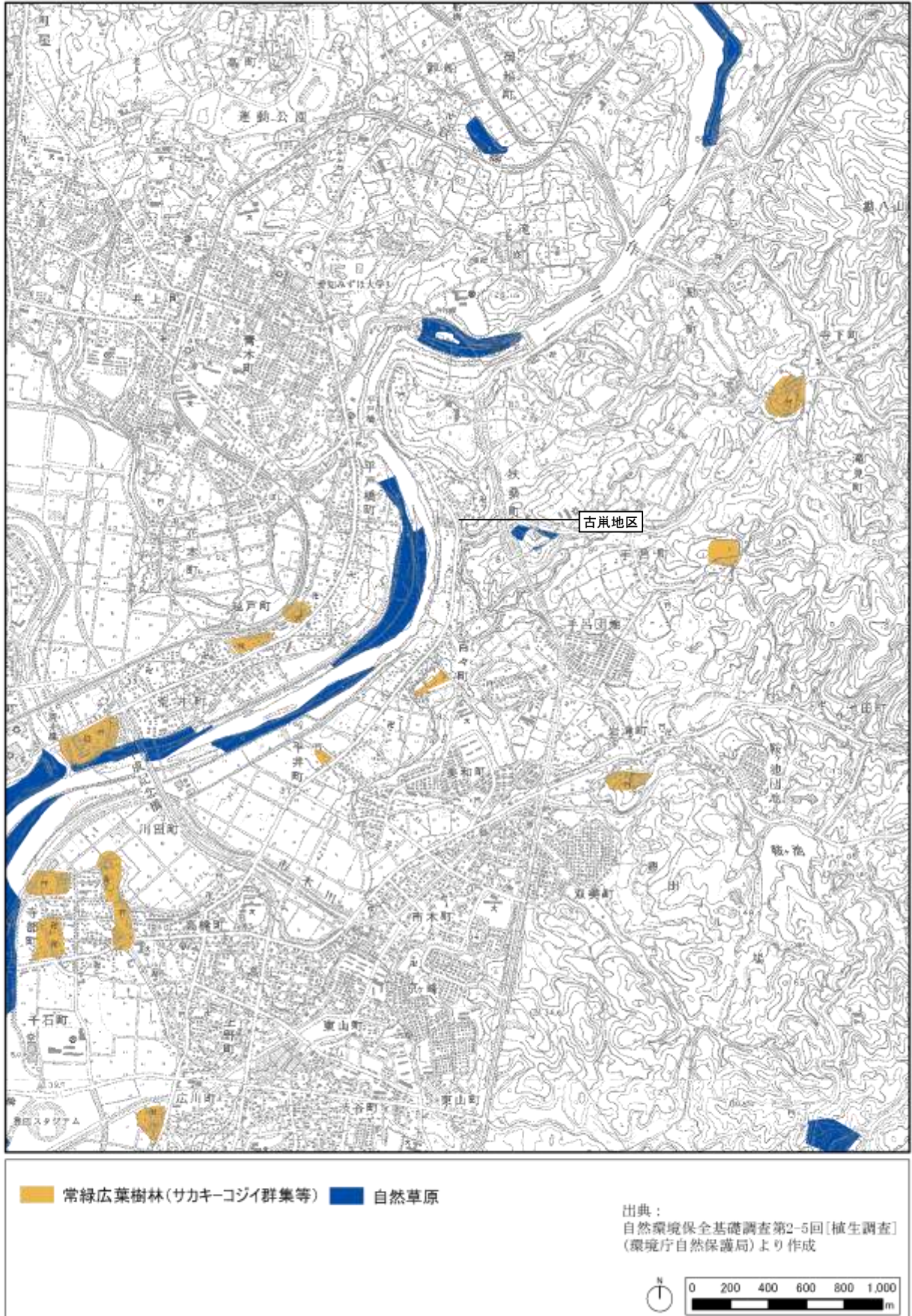


図 3-7：自然林・自然草原の分布

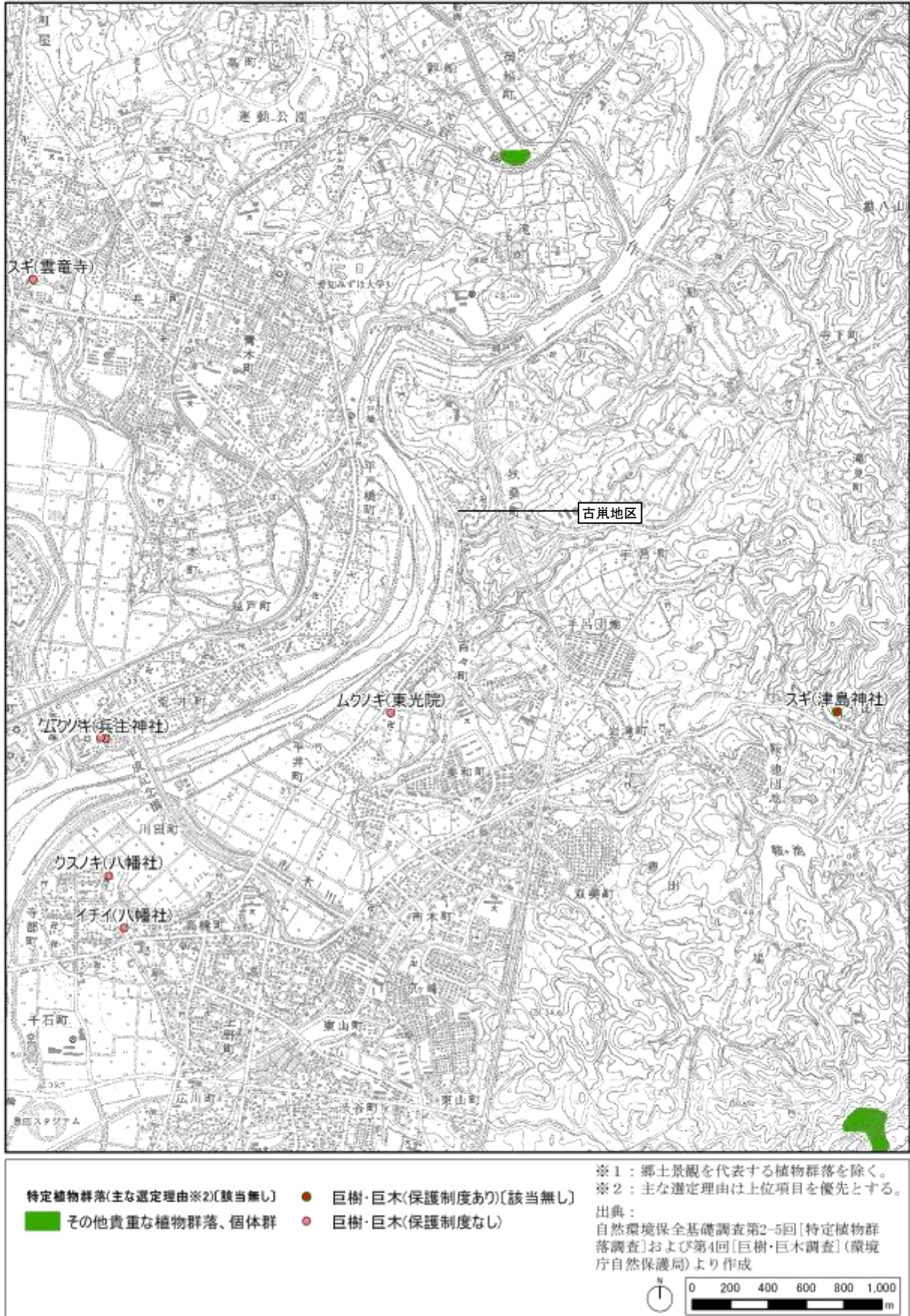


図 3-8：特定植物群落、巨樹・巨木の分布

(3) 社会環境の概況

1) 人口

平成 17 年（2005 年）国勢調査では、扶桑町の人口は 576 人、世帯数は 159 世帯で、扶桑町 6 丁目の人口が最も多く（208 人）、町全体の高齢化率（65 歳以上の高齢者人口が総人口に占める割合）は 21.35%である。また扶桑町の人口および世帯数は増加傾向にあり、平成 20 年（2008 年）の人口は 635 人で、平成 6 年（1994 年）の人口より 145 人増加している。

表 3-2：扶桑町の人口・世帯数（国勢調査）

町丁・字名	秘匿	人口総数 (人)	扶桑町合計を 占める割合	性別人口(人)		年齢別人口(人)			世帯数 (世帯)
				男	女	15歳未満	15～64歳	65歳以上	
扶桑町1丁目		147	25.52%	71	76	23	90	34	39
扶桑町2丁目		100	17.36%	52	48	14	67	19	27
扶桑町3丁目	@	104	18.06%	57	47	26	74	21	34
扶桑町4丁目	*	17	2.95%	9	8	x	x	x	4
扶桑町6丁目		208	36.11%	106	102	43	111	49	55
扶桑町 計		576	100.00%	295	281	106	342	123	159
総数を占める割合		100.00%	—	51.22%	48.78%	18.40%	59.38%	21.35%	—

※表中において、調査対象の個人情報を秘匿するため、人口数人程度の極めて小さい地域別の結果については秘匿しているが、秘匿された項目を含む地域区分より大きな地域別での集計結果を利用する場合を考慮し、隣接する地域のデータに足し上げた結果を掲載している。

(1) 数データの秘匿を講ずる表示について

「x」… 年齢別人口に関する結果

(2) 秘匿対象地域及び合算対象地域の表示について

「*」… 秘匿項目がある町丁・字などの秘匿対象地域。

「@」… 秘匿対象地域に隣接する合算対象地域。

出典：平成 17 年国勢調査

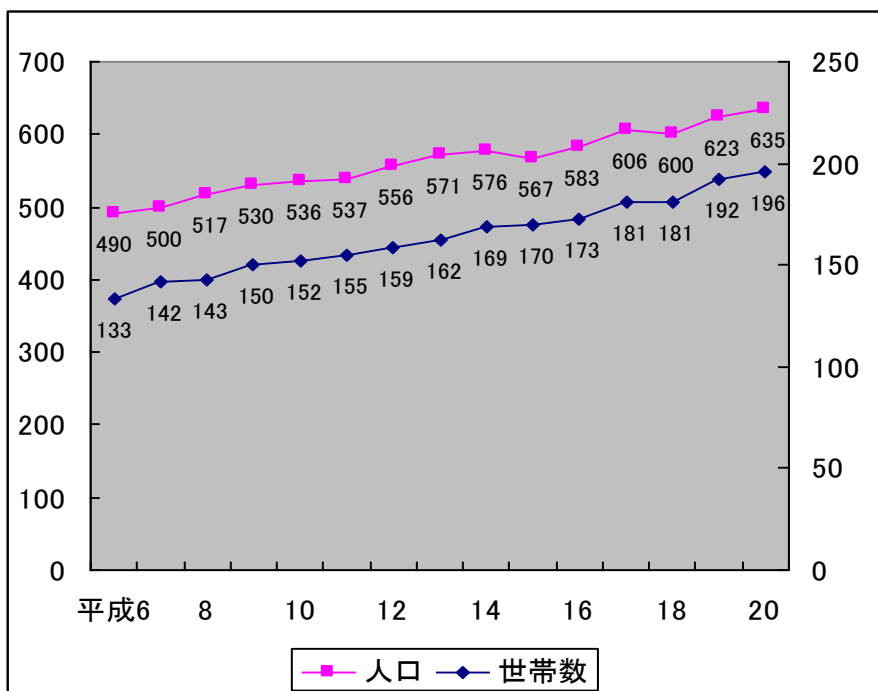


図 3-9：扶桑町の人口・世帯数の推移

出典：住民基本台帳より作成

2) 土地利用

古兎地区では耕作できる土地が少なく、山と矢作川に囲まれたわずかな平坦部に集落と畑地を主とした農地が密集する。矢作川では近自然工法による水制工が整備され、また矢作川に沿って連続する河畔林の一部は「古兎水辺公園」として地域住民の手により管理されている。集落の背後に連続する山には竹林も多くみられ、地区の北東側では山の上の高台においても耕作が行われている。

地区周辺の土地利用をみると、地区の南側に広がる平野部および川を挟んだ地区の西側では市街化が進み、まとまった規模の住宅団地が立地している。古兎地区は東海環状自動車道豊田勘八 IC から1キロ圏内にあり、豊田と同じく名古屋市の周辺 30~40km 圏に位置する瀬戸・土岐・関・岐阜・大垣・四日市等の都市と連絡している。



古兎水辺公園

平成3年、豊田市内で、県内で初めて近自然工法による水制工が整備されると同時に、護岸を覆っていた河畔林を整備して水辺公園を造ったところ、自然に地元市民が集まるようになって市民団体を結成し、「古兎水辺公園」と命名した。そして草刈やゴミ拾いなどの水辺愛護活動を行うようになった。また、毎年約500人が80艘で参加する「筏下り大会」の発着場としても利用されている。

出典：矢作川水系河川整備基本方針

図 3-10：土地利用平面図

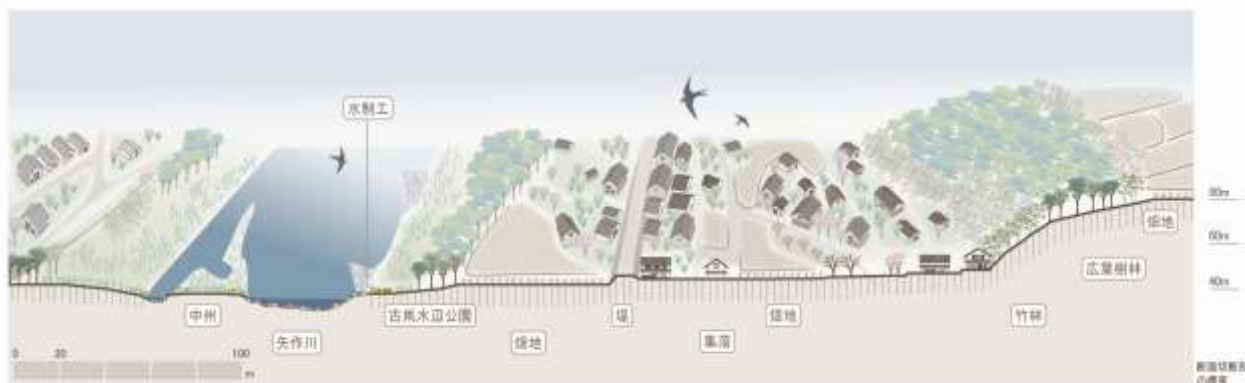


図 3-11：断面模式図



古峯集落と背後の山々



集落の様子



矢作川の舟運に使われていた土場跡



土場におりるために使われてきた階段



古峯水辺公園



竹林が繁茂する河畔



近自然工法により整備された水制工

図 3-12 : 古峯地区と矢作川の状況

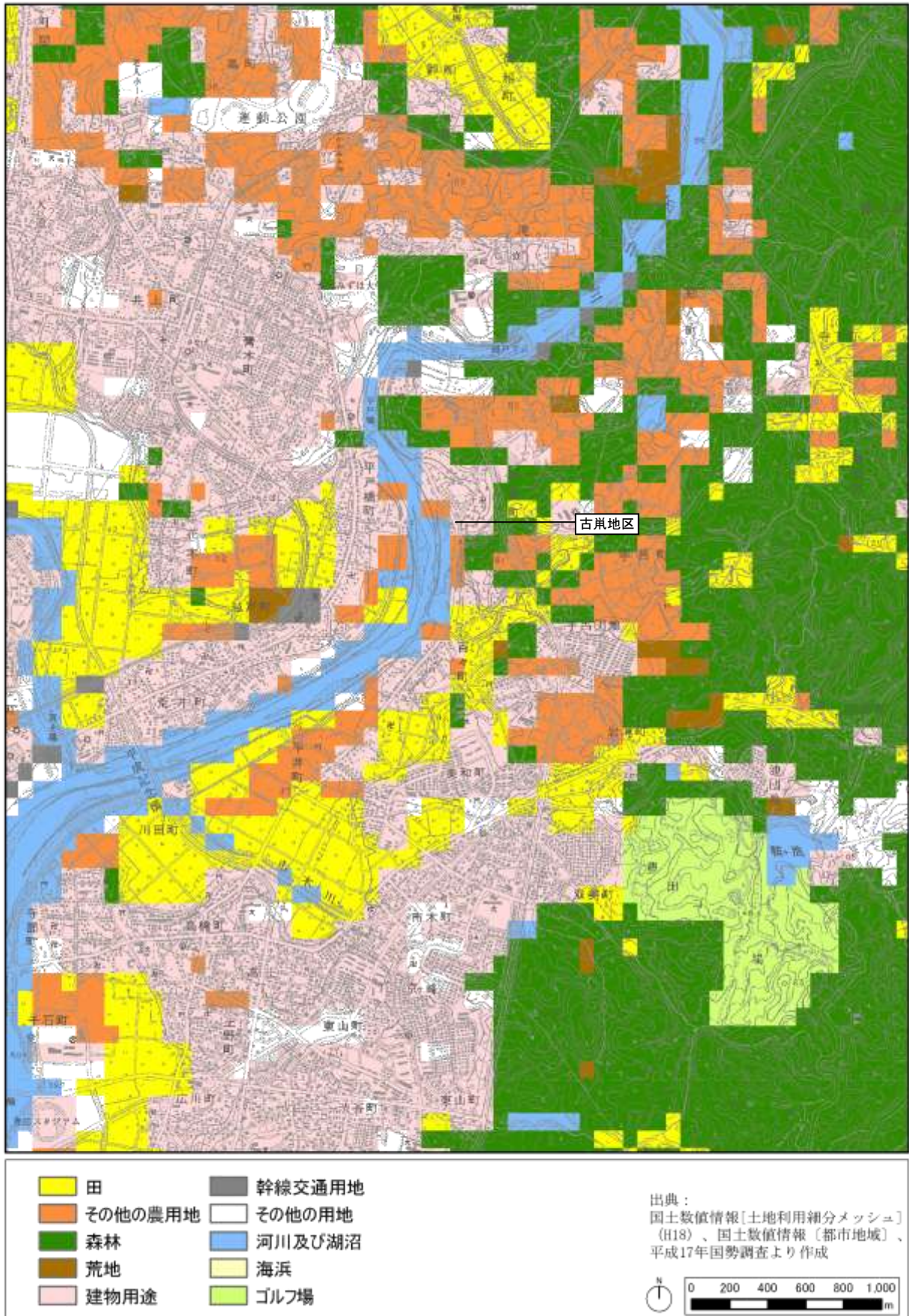


図 3-13：土地利用図

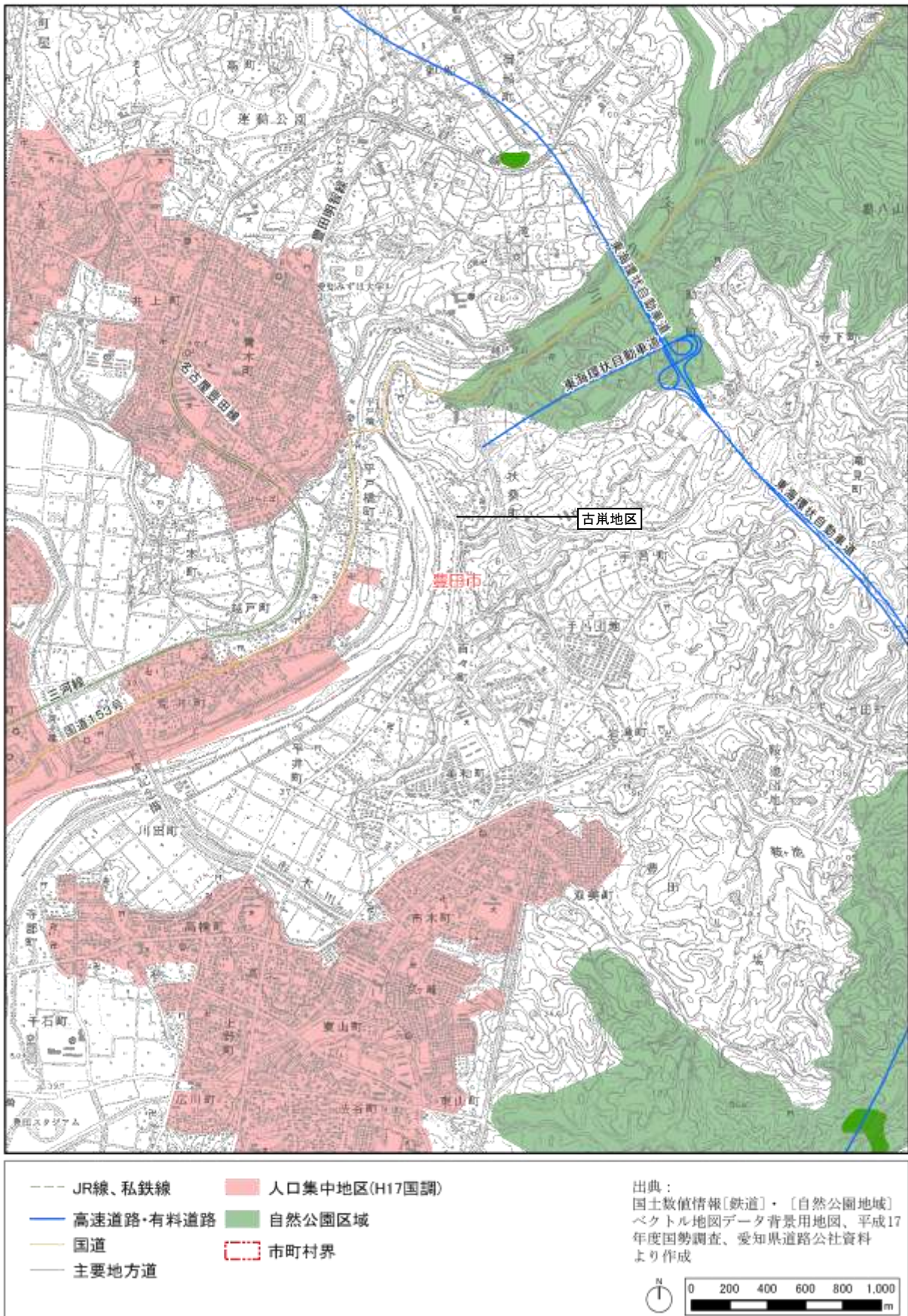


図 3-14 : 交通網

3) 産業

扶桑町を含む平井集落(都市的地域)の平成17年(2005年)の農家数は95戸(うち販売農家数44戸)で県平均¹⁾農家数(26戸)を大きく上回るが、平成7年(1995年)と比べた販売農家の増減率は-30.16%であり、販売農家は大きく減少している。

平成17年(2005年)の農家人口(394人)、経営耕作面積(32ha)は、県平均(農家人口113人、経営耕作面積16ha)を大きく上回るが、農家増減率-18.26%、経営耕作面積増減率-30.43%であり、農家人口、経営耕作面積ともに平成7年(1995年)と比べ大きく減少している。



図 3-15 平井集落の範囲

表 3-3 : 平井集落の農家数

	都府県平均(2005)	県平均(2005)	2005年	2000年	1995年	増減数(※1)	増減率(※2)
総戸数(戸)	…	…	…	1,000	…	-	-
総農家数(戸)	20	26	95	92	99	△ 4	-4.04%
販売農家数(戸)	14	15	44	56	63	△ 19	-30.16%

※1: 増減数=2005年農家数-1995年農家数

※2: 増減率=増減数/1995年農家数×100

表 3-4 : 平井集落の農家人口

	都府県平均(2005)	県平均(2005)	2005年	2000年	1995年	増減数(※1)	増減率(※2)
男女計(人)	82	113	394	465	482	△ 88	-18.26%
男計(人)	40	55	201	240	244	△ 43	-17.62%
女計(人)	42	58	193	225	238	△ 45	-18.91%

※1: 増減数=2005年農家人口-1995年農家人口

※2: 増減率=増減数/1995年農家人口×100

表 3-5 : 平井集落の耕地面積

	都府県平均(2005)	県平均(2005)	2005年	2000年	1995年	増減数(※1)	増減率(※2)
所有耕地面積(ha)	21	20	45	…	…	-	-
耕作放棄地面積(ha)	3	3	16	…	…	-	-
経営耕地面積(計)(ha)	19	16	32	40	46	△ 14	-30.43%
経営耕地面積(田)(ha)	13	10	18	22	24	△ 6	-25.00%
経営耕地面積(畑)(ha)	4	5	14	18	22	△ 8	-36.36%
経営耕地面積(樹園地)(ha)	2	1	0	0	0	0	-

注: 所有耕地面積、耕作放棄地面積は総農家+土地持ち非農家。経営耕地面積は販売農家。

※1: 増減数=2005年耕地面積-1995年耕地面積

※2: 増減率=増減数/1995年耕地面積×100

4) 文化財

百々貯木場は矢作川中流域における舟運の歴史を今日に伝える貴重な資源であり、平成9年(1997年)12月に市指定有形文化財(建造物)に指定されている。また旧井上家住宅西洋館や守綱寺本堂、随応院渡辺家墓所など、矢作川の沿岸に歴史的資源が多く分布している。

¹⁾ 県平均: 該当都道府県内のうち、全域が市街化区域の農業集落を除いた農業集落の平均値をいう
都府県平均: 北海道を除く全国の平均値をいう(全域が市街化区域の農業集落を除く)

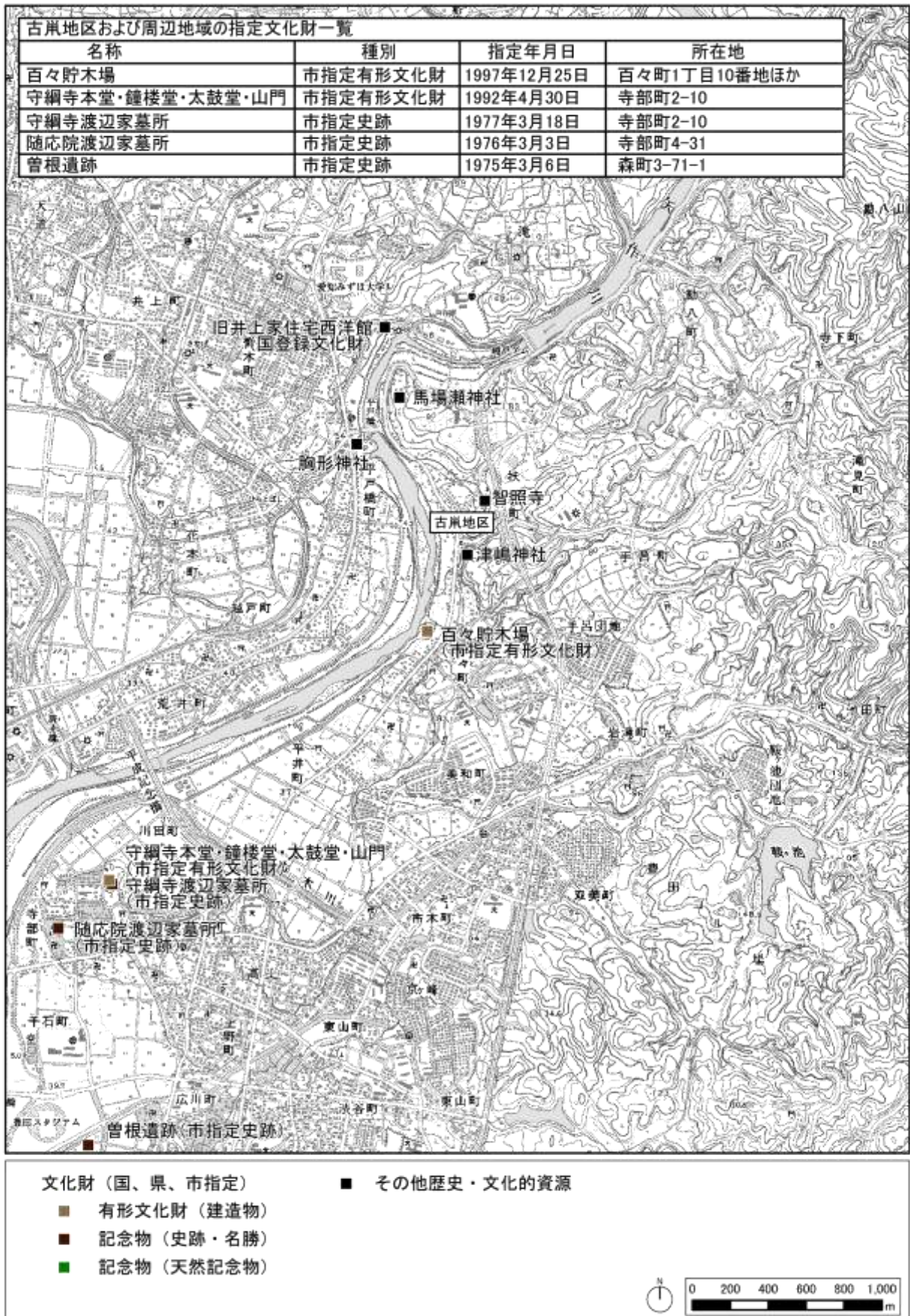


図 3-16 : 文化財・歴史的資源の分布

表 3-6 : 百々貯木場 概要

	
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 矢作川は古くから太平洋沿岸と山間地を結ぶ交通路として利用されてきた。下流からの舟運の終点は百々水中貯木場の付近であった。 ・ 百々貯木場は、18世紀後半から地元で材木商を営んでいた今井善六によって建設された。 ・ 水中貯木場を建設した目的は、木材を陸揚げすることなく集積できること、洪水時の流材を防ぐこと、夏場に木材の割裂を防ぐことなどであった。 ・ 水中貯木場は大正7年(1918年)に完成し、上流に越戸ダムが建設されたなどのため昭和5年(1930年)にその役目を終えた。
文化財指定までの経緯	<p>施設の利用が終了した後、貯木場は放置され、河川から土砂などが流入・堆積し、半ば埋没状態にあった。埋没状態にあった貯木場は、昭和63年(1988年)から平成5年(1993年)にかけて豊田市教育委員会によって発掘されるとともに、傷んでいた擁壁などの補修が行われ、公園として整備された。また豊田市教育委員会は平成9年(1997年)に旧所有者から用地を取得し、貯木場跡を市の文化財(建造物)に指定した。</p>
状態	<p>貯木池の保存状態は良好で、建設当時の原形が保存されている。貯木池内の突堤は大小6本あり、先端部に杭を立てて差し込む穴が設けられている。また樋門は度重なる矢作川の洪水にも耐え、ほぼ建設当時の状態で残っている。</p>

出典：豊田市教育委員会資料、豊田市近代の産業とくらし発見館「近代化遺産調査報告」

(4) 法制度

ア) 都市計画区域区分

古巣地区一帯は市街化調整区域で、対岸の平戸橋町、青木町一帯には市街化区域が広がる。地区の南側には鞍ヶ池緑地、矢作緑地が立地し、ともに都市公園に指定されている。

イ) 保安林および国有林・民有林

古巣地区一帯には小規模な民有林が点在し、集落の背後に連続する山は大部分が民有林である。小規模な民有林を囲むように、勘八山一帯および鞍ヶ池の南側にまとまった規模の民有林が分布し、その一部が保安林に指定されている。

ウ) 農地

矢作川に沿って農業地域が連続する。まとまった規模の田を中心に農用地が指定されており、地区の北東部の高台の農地の一部も農用地に指定されている。

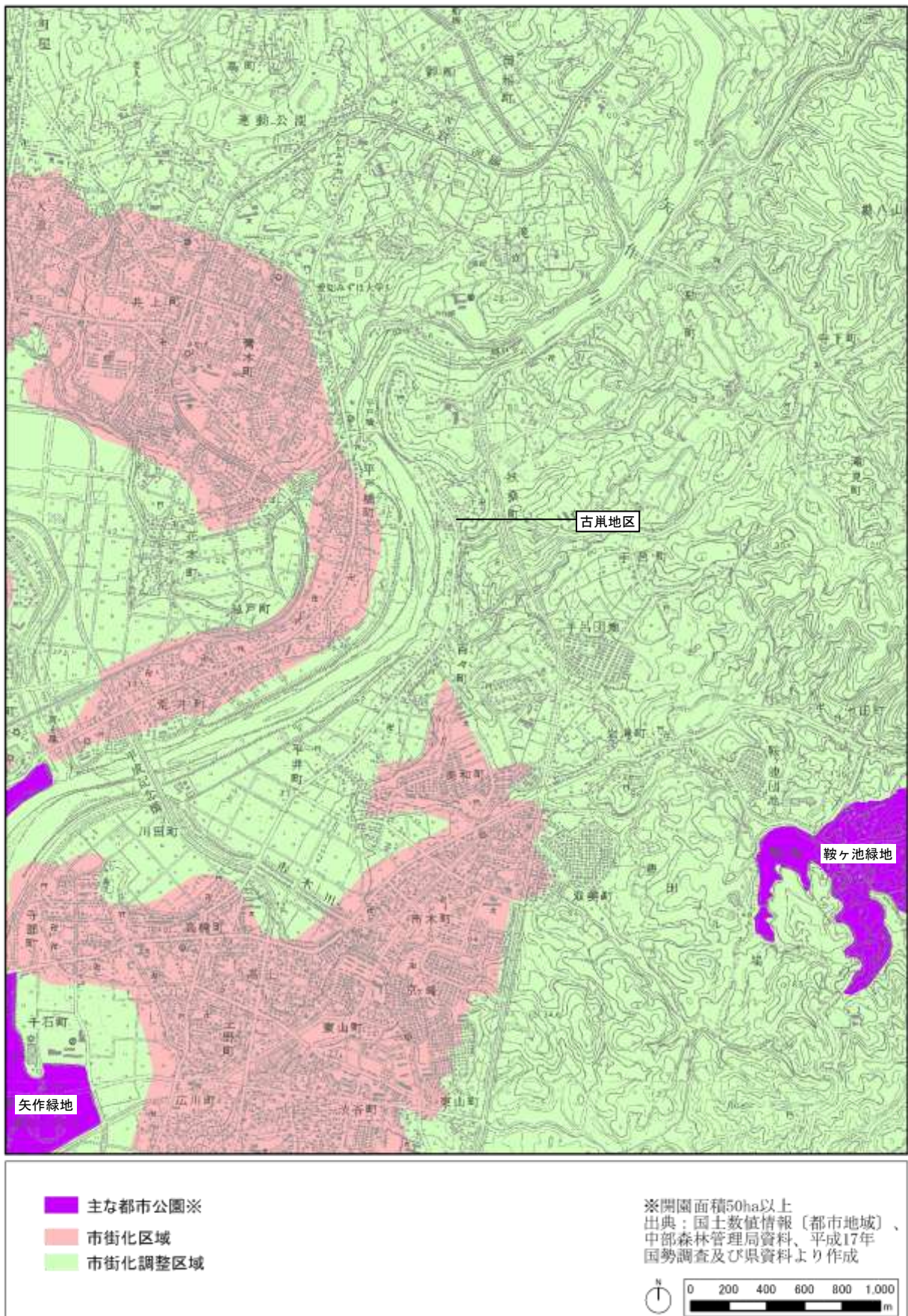


図 3-17：都市計画区域区分・主な都市公園

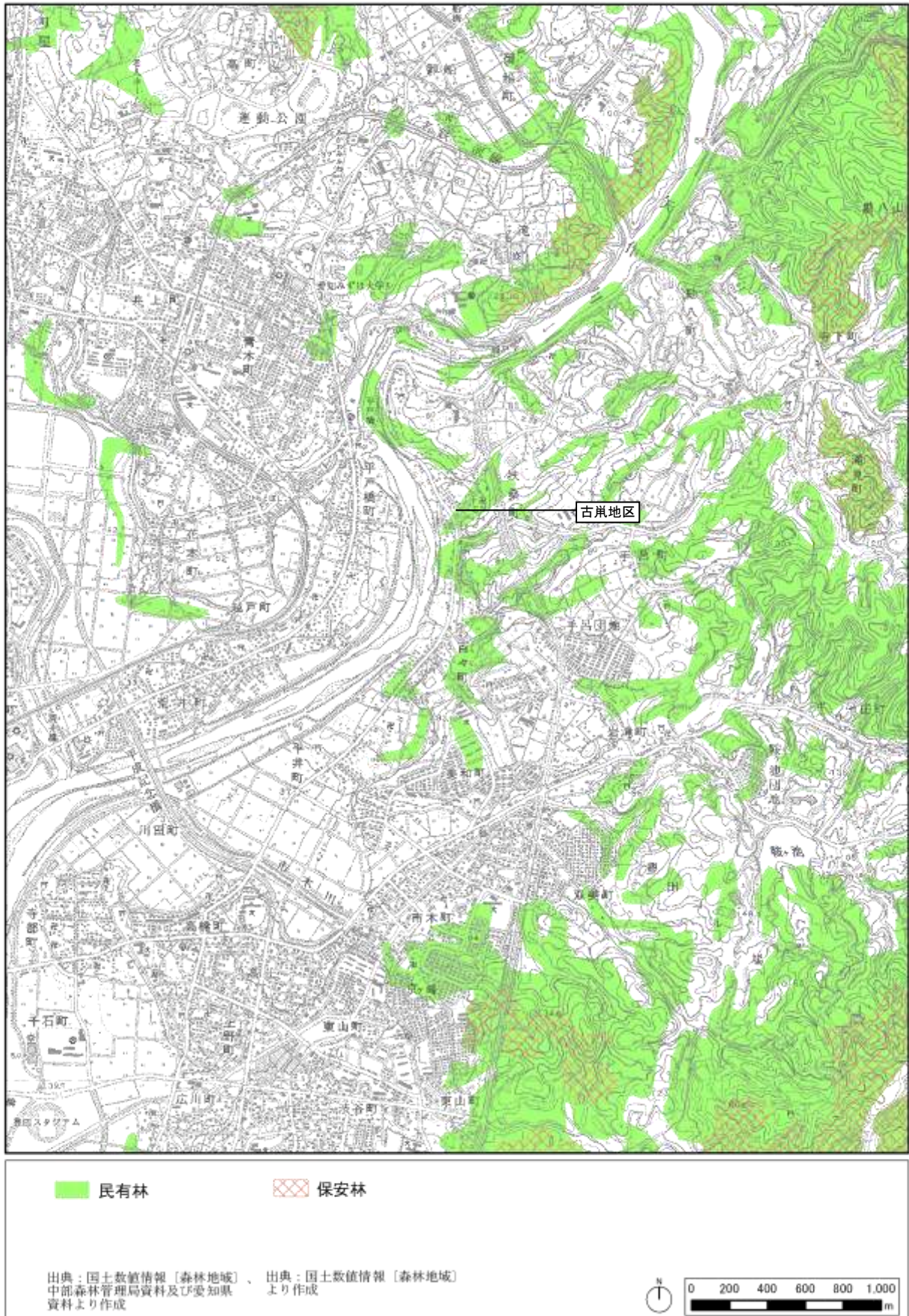


図 3-18：保安林および国有林・民有林の分布

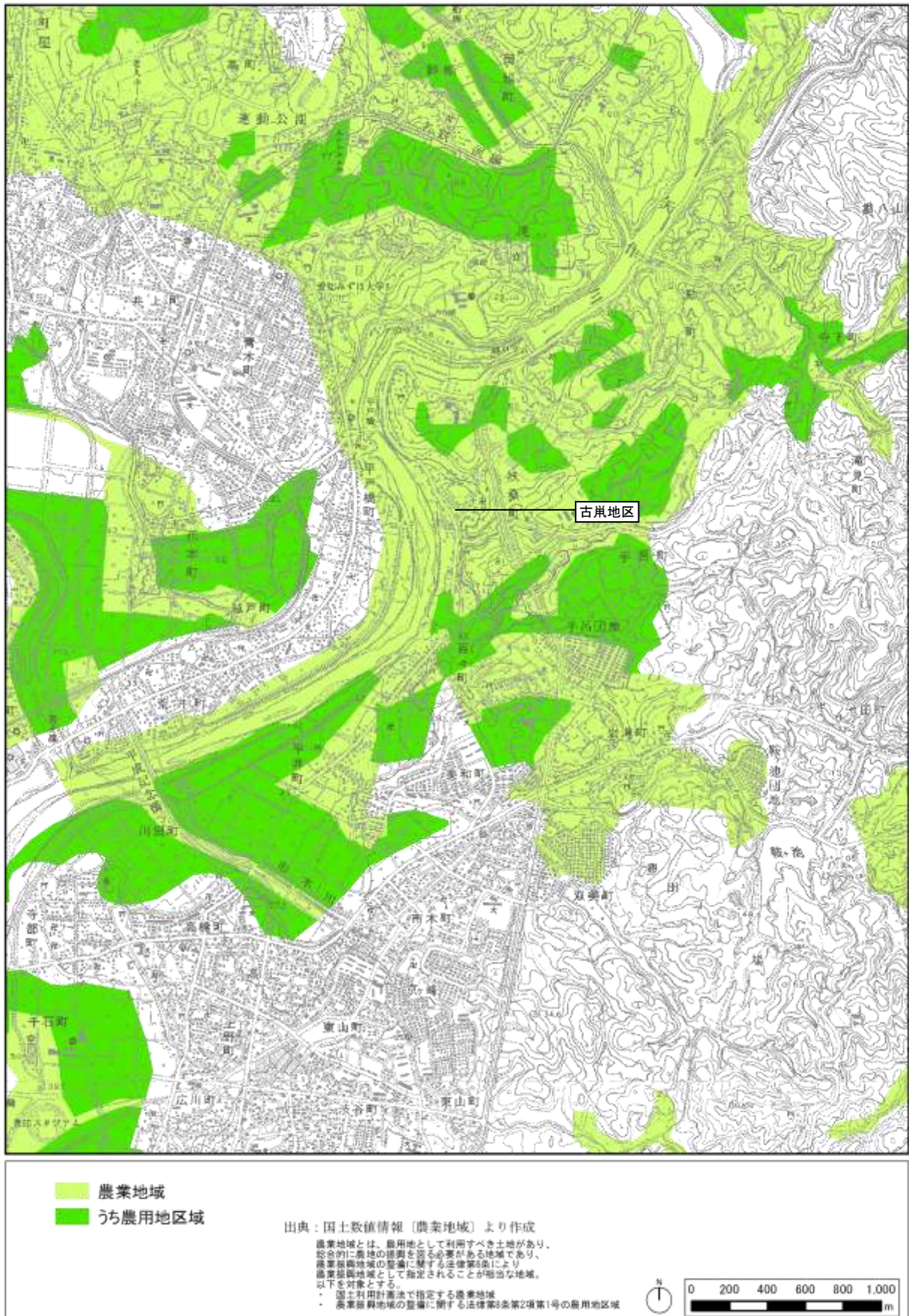


図 3-19：農業地域・農用地区域の分布